

ジオパークを活用した地球科学の普及活動「石の標本づくり in 白山手取川ジオパーク」

Promotion of the earth science utilizing the Geopark “Making the stone specimen in Hakusan Tedorigawa Japanese Geopark”

*鬼頭 雄也¹、平井 佐利¹、玉村 清文¹、日比野 剛²、中野 加織里²、森下 知晃³、平松 良浩³、浜田 麻希³

*Yuya Kitoh¹, Satoshi Hirai¹, Kiyofumi Tamamura¹, Tsuyoshi Hibino², Kaori Nakano², Tomoaki Morishita³, Yoshihiro Hiramatsu³, Maki Hamada³

1. (一社)石川県地質調査業協会、2. 白山手取川ジオパーク推進協議会、3. 金沢大学

1. Ishikawa Geological Survey Association, 2. Hakusan Tedorigawa Geopark Promotion Council, 3. Kanazawa University

近年、少子高齢化や理科離れなどにより、自然科学分野の担い手減少が進展している。一方、異常気象やそれに伴い発生する自然災害は近年多発する傾向にあり、自然科学分野へ進む研究者や技術者の育成だけでなく、国民ひとりひとりの自然環境に対する理解度の向上が、今後必要性を増すといえる。

(一社)石川県地質調査業協会、白山手取川ジオパーク推進協議会、金沢大学は2017年度より、小学生とその保護者を対象としたイベント「石の標本作りin白山手取川ジオパーク」を開催している。このイベントはジオパークというフィールドを活用し、次世代を担う子供達に対して、身近な自然に触れることから地球環境への理解を促し、自然科学への興味につなげてもらえるような活動を目指している。また、近年敬遠されがちである現地で直接自然を観察し考える活動を通して、子供達のフィールド活動への関心を高めたいと思っている。

2018年度は10月20日の土曜日に、抽選で選ばれた小学校4年生以上の児童とその保護者35組が参加して開催された。子供達は石の種類やその成り立ち、見分け方などを教わった後、学生や留学生などとともにハンマー、ルーペ、薬液なども体験しながら、石の標本づくりを行った。イベント終了後に参加児童が記入したアンケートの集計結果より、子供達の石や自然に対する好奇心の強さを知ることができたほか、石の判別の難しさ楽しさを味わってもらえたことなど、子供達の率直な意見を知ることができた。また、活動内容や説明の理解度・難易度などを検証し、今後の活動に反映させたいと考えている。私達はこのイベントを継続的に開催していくのは勿論のこと、子供達の好奇心をくすぐるような新たな試みも行っていきたいと考えている。

キーワード：担い手、ジオパーク、教育、自然災害、フィールド、アンケート

Keywords: New leaders, Geopark, Education, Natural disaster, Field study, Questionnaire